

研究分野のキーワード：理科教育，地学教育，防災教育，教材開発

研究紹介

私は長らく公立高等学校の教員をしていました。その間、理科に親しみをもってもらおうと、観察・実験などを積極的に授業に取り入れておこない、自然の不思議さ・科学の奥深さをたのしむ心を養えたらいいなと考えていました。ただ、実験は理科の授業における重要な要素の一つとはいうものの、授業で行う場合は予備実験を繰り返し、準備を十分したつもりで授業に臨んでも「100 発 100 中」というわけにはいきません。「習うより慣れろ」とばかりに経験を積むしかないことが多いのです。私の教員経験から得た、この実験はこうやるとうまくいくというコツを、教職を目指す学生諸君が身につけられるようにしたいと思っています。そして、大学で学んだことをさらに現場の教育実践に生かして理科の好きな子供たちをどんどん育ててほしいと願っています。

最後に、平成 27 年度の戸倉研究室でゼミ生たちが取り組んでいる卒論のテーマを紹介しておきましょう。

○子供たちに月の満ち欠けを教えるとき、どのように授業することが一番理解が進むのだろうか？という教材に関する実践的研究

○矢作川の河原に子供たちを連れていって河原の石ころについて調べようとするとき、どのような点に工夫をすれば効果的な授業展開が組み立てられるだろうかという実践的研究

○発見！100 年前にもあった、おもしろ実験本。本文はほとんど古文で難解な漢字だらけですが、挿し絵などを見ていると授業中に上がる子供たちの歓声が聞こえてきそうです。こんな本を書いた人って、いったいどんな人だったのだろうか？ということから出発した教材に関する研究

○東海・東南海地震対策が急務とされている今、防災意識を高める教育をどのように組み立てていったらいいのか、学校の実態に応じた防災教育とはどうあるべきか？という観点から、たとえば津波被害の教材化に関する実践的研究

などです。